

◆授業のポイント◆

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための工夫（学期トピック作文と繰り返し指導との関連）
- ・ 学習意欲の向上のための工夫（「E-Card」の活用）

英語科学習指導案

日 時 平成21年5月29日（金）2校時
学 級 2年1組（男子19名 女子18名 計37名）
授業者 教 諭 宮 之 脇 圭

1 単元 NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2 Writing Plus 1

2 単元について

本単元は、既習事項を用いて、時間の流れに沿ってあるいはある話題にしばって日記を書く単元である。始めに時系列に沿った日記のモデル、続いて話題を焦点化した日記のモデルが示され、それぞれどのような表現をどのように用いるのかが提示されている。また、それらを活用し、ヒントを頼りに日記の例を書いたり、実際に自分の日記を書いたりする構成になっている。ここまでの流れにおいて、日記を書いてみようとする意欲を喚起するとともに、日記を書く際に必要となる基礎的な知識をしっかりと定着させたい。また、自分の日記を完成させるだけでなく、他人の日記の内容について質問し、それについてまとまりのある文を構成できるようにさせたい。そうすることで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や態度を養いたい。さらに、生徒に類似の文を何度も繰り返し使用させることで、本単元における基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと習得させたい。

本学級の生徒は、全体的に明るく活発であり、英語学習には意欲的に取り組んでいる。ALTとの授業でも積極的に対話しようとしたり、海外のことについて質問しようとしたりする姿勢が見られ、英語でのコミュニケーションや外国文化に対する興味・関心も高い。しかし、それらにも個人差がみられ、特に「書くこと」においては消極的であったり、正確さを欠いたりする生徒もいる。そこで、表現活動の際には、失敗を恐れずに表現活動にチャレンジすること、失敗を互いの貴重な学習材料として共有することを原則として英語学習をすすめている。また、ある表現を繰り返し使用させる際には事前に見届け、できるだけ正確な文を使用させ、正しい表現が内在化されるようにしている。さらに、言葉に付随するジェスチャーやアイコンタクト等も積極的に取り入れ、コミュニケーション活動がより実践的になるようにしている。これらの取組を通して、コミュニケーションを自ら楽しもうとする姿勢や、中学校での英語学習における基礎的・基本的な知識・技能を習得させたいと考える。

指導にあたっては、まず日記の基本的な文の流れや構成を把握させるために、Step 1に示されたモデル文を理解させ、Step 2に示されたヒントを頼りに、実際に日記のモデル文を正確に書かせたい。それをふまえ、自分の日記を書くことにチャレンジさせ、積極的に自己表現させたい。また、それぞれが書いた日記を活用し、それに関する対話練習を組み入れることで、類似の文を繰り返し使用させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りたい。

3 単元の目標

- (1) 既習の表現を用いて積極的に自分や友達のある日の出来事を表現しようとしている。
- (2) 文章の流れを考えて、日記を書くことができる。
- (3) 友達の日記を聞き、内容を理解することができる。
- (4) 全体として自然な流れになるような日記の表現を知っている。

4 単元の指導計画

【Goal of Writing Plus 1: 友達のある日の出来事についてレポートしよう】

	主 な 学 習 内 容	指導の重点				学期トピック作文との関連
		L	S	R	W	
第1時	- 単元の学習計画の確認 - 新出語句 - モデル文の理解 - 表現活動（自分の日記を書く）			○	◎	- 動詞の過去形を使った表現 “I went to Sakurajima yesterday.” - 行動の詳細を付け加える表現 “I played tennis in the morning, and ~.”
◎第2時	- 表現活動①（自分の日記を完成する） - 対話活動（日記の内容についての問答） - 表現活動②（友達の日記の内容を話す） - 表現活動③（友達の日記の内容を書く）	○	◎		◎	- 相手の行動について尋ねる表現 “Did you ~?” “Where did you ~?” - 感想を述べる表現 “It was good.” “I had a good time.”

5 単元の評価規準

I コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	II 表現の能力	III 理解の能力	IV 言語文化についての 知識・理解
ア 自分の日記を積極的に 書こうとしている。 イ 友達のある日の出来事 を意欲的に伝えようとし ている。	ア 既習の表現を用いて自 分の日記を書くことがで きる。 イ 聞きとった情報をもと に友達のある日の出来事 を話すことができる。	ア モデル文を通して日記 の基本的な構成を読みと ることができる。 イ 友達のレポートを聞い てその内容を理解するこ とができる。	ア 日記の基本的な構成や 文の流れを理解してい る。 イ 相手の行動についてた ずねる表現を知ってい る。

6 本時の実際（2／2）

(1) 目 標

- ① 既習の表現を用いて積極的に自分や友達のある日の出来事を表現しようとしている。
- ② 聞きとった内容をもとに、友達のある日の出来事を伝えることができる。
- ③ 友達のレポートを聞き、内容を理解することができる。
- ④ ある日の出来事をたずねたり、それに答えたりする表現を知っている。

(2) 鹿児島Standardレベル

学 習 の ね ら い		
Step	Skill	Description
3	Strategy 1	相手の言った単語を繰り返すことができる。
		“Really?”, “Oh, did you?” などを用いて対話をする。
3	Listening 2	日常的な会話で、ゆっくりはっきり自分に向かって言われたことが理解できる。
		友人のレポートの内容を聞きとる。
3	Speaking 11	最近の出来事を説明するときに、時々失敗しても過去形を使うことができる。
		友人のある日の出来事について過去形を用いて述べる。
3	Writing 1	身近なトピック（日記）について、思い・考え・意見・理由などを1～2文程度書ける。
		「行ってみたい場所」について表現する。

(3) 授業設計の工夫

- ① 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための工夫（学期トピック作文と繰り返し指導との関連）

英語学習における基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるには、類似の表現を中・長期的に繰り返し何度も使用させ、表現の内在化を図ることや生徒が自主的に、意欲的に取り組める内容であることが不可欠であると考えた。そこで、引き続き取り組んでいる学期トピック作文の指導計画を見直し、より教科書との関連を図り、授業で扱う新出の語や基本文と学期トピック作文で使用する表現につながりをもたせ、何度も繰り返し使用させることとした。また、類似の表現を効果的に繰り返し使用させるために、4技能を活用させながら何度も使用できるように学習過程を工夫した。さらに、学期トピック作文の内容をより生徒のニーズに合わせたものにし、一層意欲的に取り組めるように工夫した。そうすることで、自ずと表現が内在化され、基礎的・基本的な知識・技能の習得につながると考えた。

- ② 学習意欲の向上のための工夫（「E-Card」の活用）

学習意欲の向上を図るためには、目標をもたせることと英語に対する学力のメタ認知が必要であると考えた。そこで、「E-Card」を活用し、その単元や1単位時間で学習し、身につけるべき力や理解すべき点等を具体的に生徒に周知させることにした。また、単元や1単位時間の最後に、「E-Card」を活用し、自己評価させ、自己の変容を把握させ、学力が向上していることを実感させつつ、学習すべき点を明確にし、よりの確で効果的な学習へとつなげられるようにした。そうすることで生徒は、自分なりの目標を設定し、その達成に向けて何が必要かを自主的に考え、意欲的に学習に取り組むようになり、学習意欲が向上すると考えた。

(4) 展 開

時 間 (分)	学 習 過 程	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点と評価 基 基礎・基本の定着 興 興味・関心・意欲・態度の育成 ※ 授業のポイントについて ◎ 評価項目 ○ 留意点
8	1 Greetings 2 Daily Training	1 日常会話を含んだあいさつをする。 2 学期トピックに関する口頭練習をする。	興 英語学習の雰囲気をつくる。 基 「行ってみたい場所」についてペアで対話させる。 ※ 既習事項を駆使してテーマに沿った自己表現をさせる。 ◎ 2文程度、表現することができたか。
37	3 Today's Goal 4 Rewriting Diary 5 Preparation for Interview 6 Interview 7 Report 8 Writing a Report	3 本時の学習目標を確認する。 友達のある日のことをレポートしよう。 4 自分の日記を修正し、完成する。 5 インタビューするための質問や答えの確認をする。 6 ペアで日記の内容について対話する。 7 友達のある日のことを伝える。 8 友人のある日のことを2文程度で書く。	興 学習目標を把握させ、意欲的に学習に取り組ませるようにする。 基 どこが間違っていたのかを確認し、修正した文を書く。 ○ 自分の日記を暗記できるくらい読ませ、インタビューに備えさせる。 ※ 既習の表現を想起させ、普段使用している表現が使えることを意識させる。(Ⅳ－イ) ○ ポイントになる部分はメモをとらせながら対話させる。 ○ メモを頼りに口頭で表現させる。 ◎ 意欲的に表現することができたか。(Ⅰ－イ)，(Ⅱ－イ) ◎ 聞きとった内容を理解できたか。(Ⅲ－イ) ※ 類似の文型を再度書かせることで定着を図る。
5	9 Consolidation 10 Self-Evaluation 11 Notice 12 Greetings	9 本時のポイントを確認する。 10 自己評価する。 11 次時の予告を聞く。 12 終わりのあいさつをする。	※ 「E-Card」を活用し、自宅で復習すべき点を明確にする。 興 学習の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。